



教学 IR レター vol.6

群馬大学 大学教育・学生支援機構

教育改革推進室 二宮 祐・幾田 英夫(内線:7521)

2024年1月発行 (第6号)

はじめに

大学教育・学生支援機構教育改革推進室は、各学部・学科による主体的な教育改革を支援するための IR (Institutional Research) 活動を進めています。

奨学金の受給や海外留学の要件として一律の GPA 基準が明示されている場合があります。適切な GPA の算定方法について考えることは今後も必要です。本稿では GPA について他大学との比較を通じて考察します。

1. GPA とは

GPA は次に示すように定義されています。

GPA Grade Point Average (GPA) 一般に一人の学生が履修した授業科目に対する評語(例えば「A、B、C、D、F」、「優、良、可、不可」)に対して数値(例えば「4~0」)を付し、それぞれに修得単位数を掛けて総和し、履修登録科目の単位数の総和で割って得られた平均値。その学生の学習成果の状況の指標であると考えられている。GPAの値を卒業、進級、留学先決定、奨学金給付のための基準としている大学もある。(大学改革支援・学位授与機構編、2021、「高等教育に関する質保証関係用語集」

(<https://niadqe.jp/glossary/5285/#en>)

Grade Point Average の略。学生の成績評価については、大学設置基準等において、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価の基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に則して適切に評価を実

施することが要求されている。GPA制度は、客観的な成績評価を行う方法として大学に導入されているもので、例えば、授業科目ごとに5段階(例:A、B、C、D、F)で成績評価を行い、それぞれ4から0のグレード・ポイントを付し、この単位当たりの平均を出し、その一定水準を卒業などの要件とする、等の形で運用されている。(文部科学省、2020、「教学マネジメント指針」、p. 72

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html)

いずれも成績評価を一定の計算で数値化して示すものであることは共通しています。

2. GPA の計算方法は全国一律ではない

素点とGP(グレード・ポイント)の関係について5つの国立大学を事例として抽出しグラフ化しました。次ページの図をご覧ください。

GP の計算方法は大きく2つに分かれます。素点の上昇に沿って階段状に GP が上がる大学がある一方、素点に従い直線状に GP が上がる大学もあります。

前者の大学は、履修した授業科目のそれぞれの成績評価(評語)を数値換算して単位数を加味した加重平均をとる方式を採用しています。国立大学の約8割が該当します。

後者の大学は、100点満点の素点から直接 GP を計算する方式を導入しています。お茶の水女子大学などで利用されています。心理学者の半田智久が提唱した方式であり、ファンクショナル GPA (f-GPA) と呼ばれて

います(半田智久、2008、「機能する GPA とは何か」『静岡大学教育研究』4, pp. 1-30)。

また、大学としては GPA を計算せず必要に応じて学生が自ら計算するように指導している東京大学、不合格の科目にも GP が付与される北海道大学、学部によって GP の計算方法が異なる東京海洋大学という事例もあります。

3. GPA の今後のあり方

本学では GPA のあり方について見直しを行い、令和 3 年度入学者から GP の計算方法を図の水色棒グラフのようにしました。これ以前の入学者については図の鳥取大学の折れ線と同じ方式です。

図 素点と GP(グレード・ポイント)の関係

100 点満点の素点が GP としてどのように換算されているかを示す。

群馬大学を棒グラフで、それ以外の大学を線グラフで表示する。

いずれの大学についても 2023 年 10 月現在での各大学の WEB サイトに掲載されている規則等を参照して作図した。

